

2017年9月26日

日本銀行旭川事務所

「2017年9月の金融経済概況のポイント」の一部訂正について

2017年9月22日に公表した「2017年9月の金融経済概況のポイント」の記述の一部に誤りがありました。3ページの住宅着工と雇用動向に関する記述のうち、7月の計数として記載したものはすべて6月のもの、8月の計数として記載したものはすべて7月のものでしたので、以下のとおり訂正いたします。

なお、現在掲載しております同ポイントの該当箇所は、すでに訂正済みです。

【誤】

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、7月は前年比▲18.8%と大幅マイナス、8月は同+22.1%と大幅プラスでした。持家、貸家とも振幅が大きくなっています。住宅着工は、このように振れが大きいので、傾向が読みにくいのですが、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかな持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。有効求人倍率は、7、8月とも、旭川（7月 1.04倍、8月 1.12倍）、稚内（7月 1.17倍、8月 1.28倍）、北見（7月 1.23倍、8月 1.31倍）、網走（7月 1.19倍、8月 1.29倍）といずれも1倍を超えています。足許タイトな度合が一段と増している感もあります。新規求人数も、7月は前年を下回った地区（旭川、稚内）もありましたが、8月はすべての地区で前年を上回りました。全体では、両月とも前年を上回っています（7月前年比+4.4%、8月同+5.4%）。

【正】

■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、6月は前年比▲18.8%と大幅マイナス、7月は同+22.1%と大幅プラスでした。持家、貸家とも振幅が大きくなっています。住宅着工は、このように振れが大きいので、傾向が読みにくいのですが、緩和的な金融環境の下で、引続き緩やかな持ち直し基調にあるとみています。

■雇用動向

- 雇用状況を示す指標は、引続きタイトであることを示しています。有効求人倍率は、6、7月とも、旭川（6月 1.04 倍、7月 1.12 倍）、稚内（6月 1.17 倍、7月 1.28 倍）、北見（6月 1.23 倍、7月 1.31 倍）、網走（6月 1.19 倍、7月 1.29 倍）といずれも 1 倍を超えています。足許タイトな度合が一段と増している感もあります。新規求人数も、6月は前年を下回った地区（旭川、稚内）もありましたが、7月はすべての地区で前年を上回りました。全体では、両月とも前年を上回っています（6月前年比+4.4%、7月同+5.4%）。

以 上